

教育プログラムの概要及び採択理由

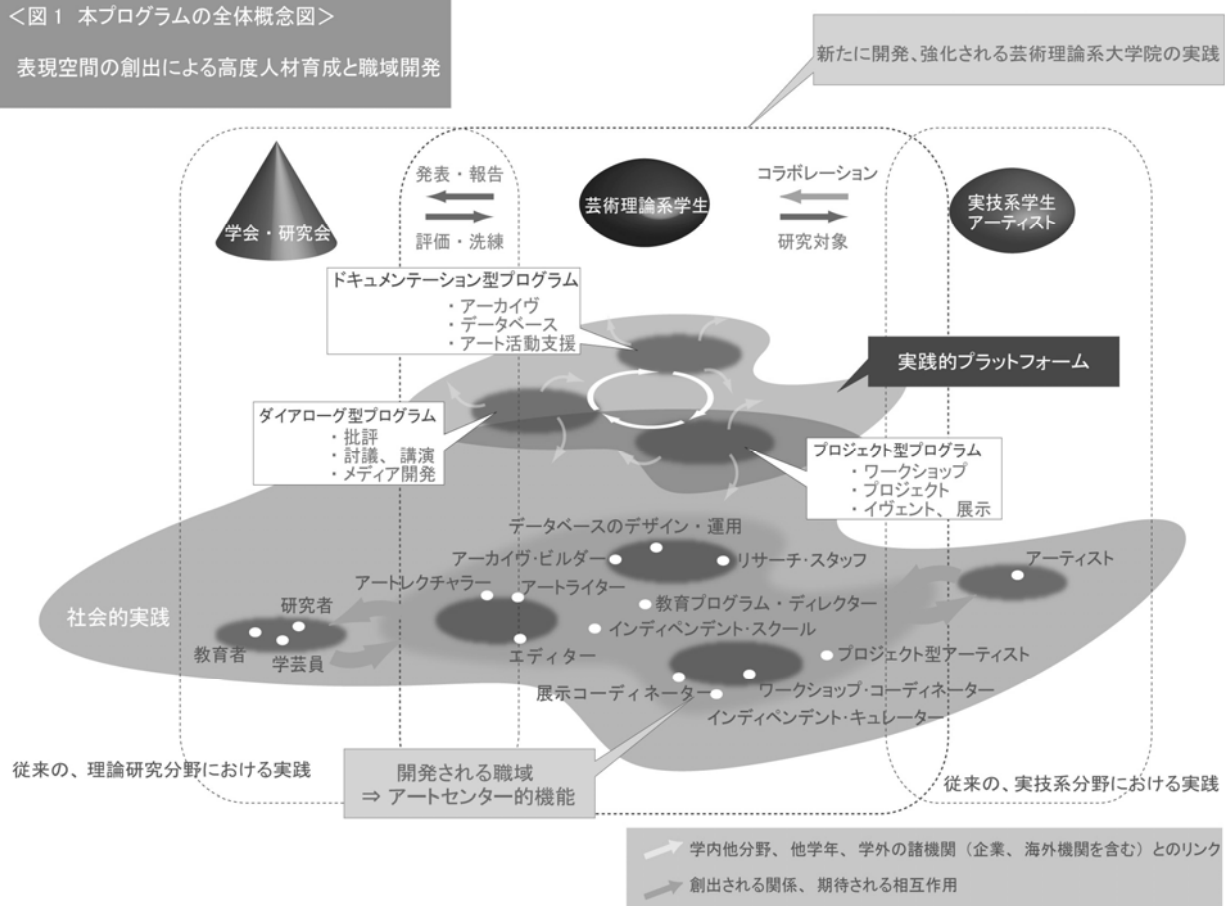
機 関 名	女子美術大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	表現空間創出による高度人材育成と職域開発		
主たる研究科・専攻名	美術研究科芸術文化専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 杉田 敦		
<p>【教育プログラムの概要】</p> <p>I. 本プログラムの背景</p> <p>1. アート&デザインを巡る社会的要請と人材ニーズ 1990年代以降、我が国は産業や経済の構造が変動し雇用の流動化が進んだ。同時に訪れた情報化の進展や少子高齢化は、アート&デザイン分野にも波及し、従来のオーバードクターや学芸員浪人に加え、ニート等の就労問題を顕在化させた。一方、相互に認め合う社会参画の在り方として、また、多様な文化・社会の交流や融合を促進する機能の一つとして、アート&デザインへのニーズは高まりつつある。今日、芸術表現は、社会性の保持を基礎に、そこからさらに踏み込んで、社会への貢献・福祉という重要な役割を担うようになってきている。こうした状況下、人材ニーズも変化し、専門知識の獲得に加え、社会への対応力、複雑化した問題に対処できる高度な専門性、批評力、問題解決力、マネジメント並びにマネジメントシステムの開発力が求められている。</p> <p>2. 本大学院の人材養成目標と現場のニーズ 本学大学院は1995年度以降修士を既に400人以上送り出してきた。修了作品制作や修士論文を提出した修了生の達成度は高いものの、前述の社会的ニーズに対応した能力開発に課題を残していた。従来型の研究者養成を目的とするプログラムとは別に、《次代のアート&デザイン高度専門人材養成＋職業活動領域の創出(拡大)》プログラムの開発が求められ、以下のような対応が急務となっている。 ①アート&デザイン分野における高度な知識・先端的な理論に加え、具体的実践や実務に取り組む。 ②知的財産権等隣接領域の幅広い知識、並びに、高度なマネジメント能力を養成する。 ③次代の職業活動領域を創出(拡大)し、それに対応する高度な専門性を備えた人材を、国内外の現場(出版・放送・美術館・教育機関・行政機関・民間企業・非営利組織(NPO))に送り出す。</p> <p>II. 本プログラムの基幹と構造</p> <p>1. 表現空間の創出プログラム</p> <p>(1) 表現空間の創出プログラム 理論系研究者の実践性の開発の核として、アート&デザイン分野の表現者、研究者の社会参画フィールド(表現空間)を創出、拡大し、それに対応する実践的な高度専門性を養成する。</p> <p>(2) 実践的プラットフォームの特徴 アート&デザインの高度な専門人材をつくる場として《実践的プラットフォーム》を設定する。プラットフォームは、社会参画機会を準備する《プロジェクト型プログラム》と、実践状況の報告、批評、高度化の手段としての《ダイアログ型プログラム》、また、プログラムの活動を記録し、活用可能な資料とする《ドキュメンテーション型プログラム》によって構成される。</p> <p>(3) 実践を通じた新たな職域開発 通常、大学院は理論や研究を整理し、新たな知見を付加した論文発表を求める。本プログラムは、大学院生の実践分野を創出し、それに対応する問題解決型の高度な専門性を養成することにより、大学院生の社会参画フィールドそのものを創出する。この「高度人材育成」と「実践フィールドの創出」という二本柱構造は、他分野の大学院にも適用可能なプログラムである。</p> <p>2. アート&デザイン空間(現場)における高度専門職業人材育成プログラム 従来の職域(教育者、研究者、学芸員)に加え、創出可能なアート&デザイン現場(職域)として、エディター、アート・ライター、展示プログラム・コーディネーター、教育プログラム・ディレクター、アーカイヴ・ビルダー、ワークショップ・コーディネーター等、社会的ニーズに即した活動を調査し、それに対応する人材を育成していく。</p> <p>3. 実践的プラットフォーム導入による大学院の実践性の強化 本プログラムの実践性は、個々の大学院生はもちろん、大学院それ自体を、社会の中に一つの実践主体として明確化する。とりわけ《ドキュメンテーション型プログラム》はアートセンター機能としての認知が進むことで、学内の実技分野はもとより、地域社会、国内外の大学、アート関連諸機関にとって有用なアート活動支援機関へと発展させることが可能である。</p> <p>4. ケースメソッド ケースメソッドをアート&デザイン分野に応用し、先駆的で多岐にわたる実践・事例を学ぶことで、多角的分析力、問題解決力、応用力を養成するマネジメント重視型のプログラムとする。</p> <p>5. 学内外の資源を最大活用する新たな教育システム・方法の開発</p> <p>①学内外の人的・社会的資源を教育資源として取込む制度開発(実務家教員、RA制度導入等)。 ②アート&デザインの現場を利用した体験型授業科目(実地研究、ファシリテーション型、コラボレーション型授業等)やインターンシップ科目を導入実施する。</p>			

女子美術大学：表現空間創出による高度人材育成と職域開発

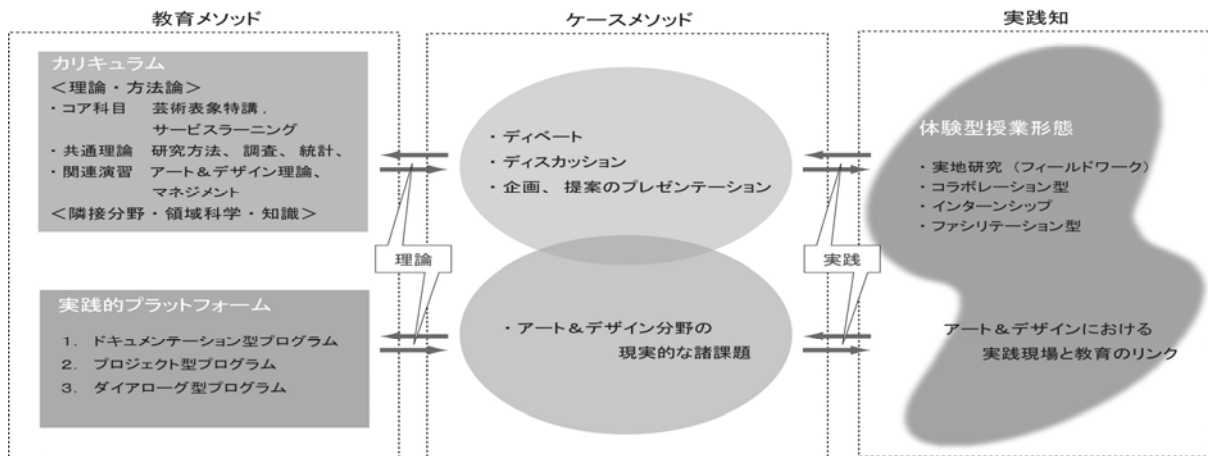
履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

<図1 本プログラムの全体概念図>

表現空間の創出による高度人材育成と職域開発



<図2 履修プロセス>



○本学大学院修士課程の履修プロセスは、「表現空間創出プログラム」というコンセプトに基づき、専攻領域を超えた、アート&デザインの《実践的プラットフォーム》の構築を目的として編成される。昨年度より試行し本年度よりカリキュラム上に位置付ける「コア科目」と共通理論科目、関連演習科目に加え、チーム実践型の<図1>のドキュメンテーション型プログラム、ダイアログ型プログラム、プロジェクト型プログラムの3つのプログラムによって構成される。個々のプログラムはその内部に、大学院生主体で運営されるプロジェクトを複数含む。プログラムはプロジェクトの選定、デザイン、運営を多面的にサポートする。

1. コア科目…大学院でのコースワークと融合する柔軟な教育形態や教育課程開発から「海外芸術プログラム」や「社会芸術プログラム(仮称:次年度開講予定)」をサービスラーニングの形態で置く。「芸術表象特講」科目を領域横断科目から専攻横断科目に発展させる予定である。
2. 表現空間創出プログラム
 - (1)プロジェクト型プログラム…ワークショップ、イベント、プロジェクト等表現そのものを主軸とする実践。
 - (2)ダイアログ型プログラム…批評、討議、講義、編集など言説を主軸とする実践。
 - (3)ドキュメンテーション型プログラム…ドキュメンテーションを通じて、活動事例のアーカイブ構築を行う。加えて、関連研究機関、助成団体等のプロジェクト実現に必要な情報をデータベース化し運用する。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、芸術分野における社会のニーズに対応した「表現空間創出による高度人材育成と職域開発」を目指し、「実践的プラットフォーム」と、各プログラムの帰結としてのアートセンター機能の独立化という将来展望まで含めて、実践性を重視する体系的な教育課程が編成され、コア科目を軸とする指導体制が整備されている点や、ファカルティ・ディベロップメントのための精緻な工夫がなされていることは評価できるが、教育の国際化という点では専任外国人教員の雇用など更なる努力が望まれる。

教育プログラムについては、ワークショップ、イベントなど表現そのものを行う「プロジェクト型プログラム」、実践状況の報告、批評等を実施する「ダイアログ型プログラム」、それらの活動を記録し、アーカイブ化とする「ドキュメンテーション型プログラム」の3段階から構成される「実践的プラットフォーム」の取組の他に、ビジネススクールで使われるケースメソッドを美術分野の教育に応用し、大学院生の分析力、問題解決力、応用力を涵養しようとする取組は斬新であり高く評価できる。また、本教育プログラムの大学全体の中で位置付けが明確にされており、今後の発展も大いに期待できる。ただし、海外の大学・機関との連携についてはより一層の具体化が求められる。